



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 184  
July  
2008

## トピックス

### 関係機関との防災協力推進

第1回センチネル・アジアStep2共同プロジェクトチーム会合を神戸で開催

### ADRCスタッフ紹介 No.31 & No. 32

〒大西正高管理部長

〒山口直樹主任研究員

## お知らせ

異動

### Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.or.jp  
http://www.adrc.or.jp

© ADRC 2008

## ● 関係機関との防災協力推進

### 第1回センチネル・アジアStep2共同プロジェクトチーム会合を神戸で開催

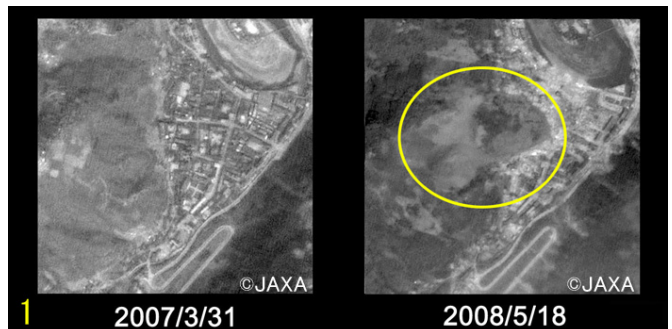
アジア防災センター (ADRC) と宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の共催により、「第1回センチネル・アジアStep2 (SA2) 共同プロジェクトチーム会合 (JPTM)」が神戸国際会議場で開催されました。会合は、ADRC、JAXA、インド宇宙研究機関 (ISRO)、韓国航空宇宙研究所 (KARI)、タイ地理情報宇宙技術開発



[全体会合]

機関 (GISTDA) および国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP)、国連宇宙局 (UNOOSA) など計18カ国および7国際機関から63人が参加し、2008年6月5日と6日の2日間にわたり全体会合、洪水および森林火災の分科会会合を行いました。

センチネル・アジアは、アジア太平洋地域の災害管理に資するため、地球観測衛星画像などの災害関連情報をインターネット上で共有する活動です。JAXAをはじめとするアジアの宇宙機関が中心となったアジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF) が先導する



[中国四川地震の地震前後の衛星写真による土砂崩れの判読]

プロジェクトであり、APRSAF加盟の宇宙機関、ADRCをはじめとするアジアの防災機関、インターネット上の地理情報システム (Web-GIS) を提供する慶応大学などが協力して共同プロジェクトチーム (JPT) を結成し推進しています。センチネル・アジアの主な活動は、大規模災害時の緊急衛星観測及び画像公開、森林火災モニタリング、洪水モニタリング及び能力開発であり、2006年10月にWebサイト (<http://dmss.tksc.jaxa.jp/sentinel/>) を開設し運用を開始して以来、地震、津波、洪水、地すべりなど計22回の大規模自然災害に対して緊急観測を行い、衛星観測画像を公開してきました。ADRCは、緊急観測要求の受付窓口となっています。

2007年11月にインドのバンガロールで開催されたAPRSAFにおいて、パイロットプロジェクトとしての第1段階 (Step1) が成功裏に終了したことが確認されるとともに更に活動を強化した第2段階 (Step2) を立ち

## 続き

上げることが決定されました。これを受けて、今回の会合ではStep2の実施計画、実施体制などを検討しStep2プロジェクトの立ち上げが行われました。Step2では、センチネル・アジアに対してデータ提供を行う衛星数の増加、アジア各国のインターネット環境を考慮した災害情報の配信およびJAXAの超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)などの通信衛星の利用、付加価値をつけた災害情報の提供等により更なる利用拡大を行うことを目標としています。

会合の一環として人と防災未来センターの見学を実施し、阪神・淡路大震災の教訓や経験を会合参加者に伝えることができました。



[人と防災未来センター見学]

## ● ADRCスタッフ紹介 No.31 & No.32

### 大西 正高 管理部長

ADRCに赴任して、早くも3か月が経ちました。以前の4年間は、日本の自治体の共同組織である自治体国際化協会(CLAIR)のシンガポール事務所で、アセアンにインドを合わせた11カ国を担当地域とし、日本の各自治体と各国との間に立って協力事業の橋渡しを行ってきました。これらの11カ国は、民族構成、言語、歴史背景、経済発展レベルが皆異なり、日本に期待する協力の内容も一様ではありません。各国の人々への理解が深まり、日本の知見がそれぞれの国の発展に様々な形で役立っていることを実感するにつれ、その職場を去りがたい気持ちを持ち強いていたのは偽らざるところです。

防災分野の仕事は初めてで、不得要領なことが多いと戸惑いを感じているとき、ミャンマーでのサイクロン被害、中国四川省の大地震と相次いで未曾有の大災害が発生しました。災害発生直後から被災状況の情報収集に努めるものの、情報は錯綜してなかなか実像が見えて来ず、もどかしい思いを抱きました。そこで四川省に向け、ADRCから調査チームを派遣することとしたのですが、被災地からの情報発信が困難を極めること、現地政府は眼前の事態への対応に忙殺されていることは兵庫県職員として阪神・淡路大震災時に経験し、よく分かっています。希薄な現地情報に加え、現地政府のサポートも期待できないままの派遣ではありましたが、派遣員の精一杯の頑張りが奏功し、1週間の派遣が終わってみると、被災地の生の情報はもちろん、中国政府との現地での情報交換もでき、その後の復興への支援の足がかりができたように思います。



世界の自然災害の約4割がアジア地域で発生していますが、被災者数をみると世界全体の約9割がアジア地域の人々です。これには、自然条件や社会条件など、様々な要因が絡んでいるのですが、災害への備えがしっかりしていれば、幾多の尊い命が失われずに済んだであろうことを考えると、アジア防災センターの仕事の意義の大きさに身の引き締まる思いがしています。今後、この重要な分野で尽力できることを喜びと考えています。

## 山口 直樹 主任研究員

初めまして。アジア航測株式会社より参りました山口直樹と申します。主として、河川砂防分野の仕事を担当してきました。

これまで、財団法人砂防・地すべり技術センターや国土交通省六甲砂防事務所に出向していたこともあり、阪神・淡路大震災に関する六甲山系の土砂災害対策に関わる仕事もしていました。

また、数年前には青年海外協力隊に参加し、カリブ海にあるドミニカ共和国の国立森林学校で技官をしていたこともあります。

2005年8月、ニューオリンズ等に大きな被害をもたらしたハリケーンカトリーナが、ドミニカ共和国の近くを通過しているときには、大雨の中、カトリーナが通り過ぎるのを待っていたことを覚えています。そのときは日常的な停電で、テレビからもラジオからも情報を得ることが出来なかったため、ただ大雨が止むのを待っていただけでした。これは、防災情報伝達の重要性を、再確認した経験でした。ADRCではこのような経験を生かせるよう、様々な案件に取り組んでこうと思います。



## ● お知らせ 異動

2008年6月末日をもちまして、中野元主任研究員および渡部弘之主任研究員がそれぞれの出向元に異動となりました。また、7月1日付で内山伸、大金義明が主任研究員として着任いたしました。

### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.or.jp までEメールをお寄せください。